

# 心理検査の実施訓練に模擬被検者を利用する試み

田 中 富 士 夫

(金沢大学 文学部)

かなり以前から医学教育の分野では模擬患者を使った診断面接訓練が行なわれており、近年ではまた電話相談の領域においても相談員の技能水準を査定するために模擬通話者を利用した試みが報告されている(Williamson et al., 1973)。これらの方法では、患者行動を模写する演技者を用いることによって、誰に対しても同一の患者刺激を与えることができ、したがって同一基準で訓練生の技能水準を査定できるという利点がある。

ところで、心理検査の領域には未だこの種の模擬法は導入されていない。筆者らは、心理学を専攻する学部学生の心理検査実習を担当して来た経験から、模擬法が心理検査の教育とくに検査場面の管理や追及質問を必要とするタイプの検査の実習訓練に有効であろうと考えた。というのは、この方法を用いれば、実習参加学生相互のロールプレイや僅かな検査者経験だけからは期待できない様々な状況を予めプログラム化しておくことによって画一的に作り出すことができるからである。

この報告は、学部学生を対象とした心理検査実習において、了解問題の実施訓練に当って模擬法を採用した探索的な試みである。

## 方 法

**対象者** 訓練の対象者となった実習生は、金沢大学文学部の心理学コースに所属する4年生11名である。

**検査** ビネー尺度の了解問題やウェクスラー尺度の一般理解(Comprehension)をモデルとして実習用に作成した個人能力検査IMPT-77(田中, 1977)のなかの下位検査J(判断)を用いた。問題は、表1に示す5問からなり、

表1. 実習用個人能力検査IMPT-77の下位検査Jの概要

「問 題」
1. タバコの吸いがらを道路に捨てていけないのは何故でしょうか。
2. スーパーマーケットで買物をしている時、他のお客が万引しているのを目撃しました。その時あなたはどのような行動をしますか。
3. 一定の年齢以下では、親の許しがないと結婚できないことになっています。それは何故だと思いますか。
4. 道を歩いているとき、迷子になって泣いている子供を

みつけました。あなたはどのような行動をしますか。

5. 犯罪者を刑務所へ入れるのは何故だと思いますか。

〔採 点〕

得点は2, 1, 0の3段階とする。採点基準の要旨は次の通り。

問題1, 3, 5では、理由が2個以上あげられ、それぞれ正当であり、かつ相互に異っておれば2点。正当な理由が1つだけの場合は1点、他は0点。

問題2, 4, 5では、いろいろな状況を想定し、それぞれの状況に応じた適切な処置を述べたものが2点。特定の状況だけを設定して自己の取る行動を述べたものが1点、他は0点。

実習の主たる狙いは、適切な質疑によって採点に必要な情報を含む回答を引き出す技能を習得し、その回答を3段階(0, 1, 2)に採点することにある。

**手続** 実習生は、まず手引を基にJの実施法と採点法について説明を受ける。次いで、2人1組で交互に検査者と被検者の役割を演ずるロールプレイを行ない、その直後に実施に当って感じた疑問点を全員で討議する時間が設けられている。ここに報告する模擬法は、この1週後の2回目のセッションに行なわれた。なお、この模擬法を終えた実習生は、外部(実習生以外の学生)に被検者2名を求めて実施しレポートする課題が与えられている。

模擬被検者は、実習担当者3名のうちKとTの2名であった。それぞれ第1問から第3問まで及び第4・5問について予め設定された役割を演じて回答した。模擬被検者の回答は表2に示す通りであって、その狙いは、曖昧な回答

表2. 模擬被検者の回答(番号は回答順序を表わす)

問1. タバコ
A1 「近所迷惑ですね」
A2 「危ないといった方がいいのかな」
A3 (「火災の危険」について言及)
問2. 万引
A 「あつ、万引だと言うでしょうね。でも、その場に

なってみないと何とも言えませんね。本当は店の人に言うのがいいのかも知れないけど」

#### 問3. 結婚

A 1 「親が何故許さないかということですか？」

A 2 「一定の年齢というのは、いくつですか？」

A 3 「親のいない人は、どうなるんですか？」（独り言に近い言い方）

A 4 「例えば、5歳とか6歳だったら、結婚ということの意味がわからないからじゃないですか」

#### 問4. 迷子

A 1 「どうしたの？ときくでしょうね」

A 2 「かわいそうだから、早速うちへ連れていきます」

A 3 「勿論、その子のうちにですよ。忙しい時ならタクシーにのせるかな」

#### 問5. 刑務所

A 1 「万引した人を入れるのですか？」

A 2 「そりゃ当たり前じゃないですか。犯罪者を入れなきゃ一体何のために刑務所があるんです。勝手に入れるわけじゃないですよ。懲役何年の刑に処すなんて刑法で、ちゃんと決っているからなんですよ。法律に従って入れるの、当然じゃないですか」

A 3 「日本は法治国家ですからね。その法律を疑うということ自体おかしいんじゃないですか。そういう人がいるから犯罪がふえるんじゃないかな」

A 4 「刑務所に入ると、簡単に言うけどね、懲役と禁固とは違うんですよ。一体どっちの話なんです」

に追及質問する方法（第1問と第4問）、複数の答のなかから被検者が強調している部分を探り出す方法（第2問）、被検者の発する質問の処理の仕方（第3問）、威圧的もしくは論争的な態度で臨み回答するというより意見を述べる被検者への対応の仕方（第5問）等におかれている。

実習生は、予め模擬被検者が待っている室でそれぞれ第1問から第3問まで、及び第4、5問の検査を行ない、終了後採点基準（表1）に従って採点した。また、検査の実施と採点に当たって感じた事柄を各問毎にまとめて後日提出した。

### 結果と考察

**採点結果** 実習生11名の採点結果は、表3にみられるようになりかなり散らばっており、不一致度は第1, 2, 4問に比べ第3, 5問において著しい。試みに5問の合計点を実習

表3. 問題別にみた採点結果の分布(N=11)

問題	採点				計
	0	1	2		
1. タバコ	1	10	0		11
2. 万引	0	9	2		11
3. 結婚	5	5	1		11
4. 迷子	2	8	1		11
5. 刑務所	5	3	3		11

生毎に算出してみると、最低3点から最高8点までの範囲に分布している。このことは、ウェクスラー尺度における「一般理解」の採点が、困難かつ一一致度が低いという諸家の報告(Plumb and Charles, 1955; Walker et al., 1965; Schwartz, 1966)と同傾向である。

次に、追及質問、被検者の質問の処理、及び意見を述べる被検者への対応の3点について実習生の感想を参照しながら検討する。

**追及質問** 第1問(タバコ)では、「近所迷惑ですね」(A1)に続けて質問をフォローしない者が多く(8名)、「火災の危険」(A3)にまで達し得た実習生は1名だけであった。第4問(迷子)でも最初の回答(A1)で打切った者が多く(8名)、A2の「うち」の明細化を求めた者は皆無であった。第2問(万引)では、被検者の述べた3種の行動のどの面を採点対象とするかがポイントとなるが、「本当は店の人に言うのがいい……」という発言を吟味する質問をしたのは3名だけであった。

このように、総じて追及質問の不足が目立つが、これは実習生の感想、「多分、火がついたままで火事になったら大変という意味だろうと思ったが、確かめる方法がみつからず」(第1問)、あるいは「必要以上に誘導するのを恐れて」等にみられる理由によると考えられる。

ところで、曖昧な回答に対する質問不足から採点の不一致が生ずるという従来からの指摘は、少なくとも第1, 4問には当てはまらないように思われる。採点に必要な十分な情報を引き出す質問を行わずに、中間的なスコア1点を与えるためであろう。

**被検者の質問の処理** 第3問(結婚)のA1は、被検者が勘違いして発する問である。これに対して、問題文を繰返し読むという適切な対応ができた例は少く(2名)、5名が「制度として(法律で)決っているのは何故か」という意味であると言い換えていた。A2で年齢を問うと、8名までが具体的に年齢を述べたり、未成年であると特定化する誤に陥っている。A4では、「もう少し年がいていて16, 7歳で結婚の意味もわかるようだったら？」といった誘導質問をした例もあり、「論争にのるまいと思ったのに、のせられて特定化したのは失敗だった」との感想を述べた実習生もいた。採点差が大きく表われたのは、A4の回答を1点とみるか0点とみなすかの違いから生じたものである。

**意見を述べる被検者への対応** 第5問(刑務所)では、高圧的・論争的態度で問いに対して正面から答えようとしなない被検者を、いかにして本来の検査場面の文脈に引き戻すかがポイントである。ここでは、「当然じゃないですか」(A2)と答えられて約半数(6名)が質問を打切っている。実習生たちは被検者の高飛車な態度に圧倒されてしま

い、被検者の方が主導権を握る場面になってゆくことに気付きながらもどのように対処すべきかわからなかったようである。「被検者が自信ありげに答えるので気おされた」とか「堂々と信念をもっているの……」、「圧倒されてしまったが、もっと強気でやるべきだった」等の感想が述べられている。A 2 で打切った場合の採点は 0 点と 1 点に分れたが、打切らずに何とか質問の意図をわからせようと努力した検査者は、A 4 以降に 2 点の回答(表 2 では省略)を得た。

## 総 括

以上の結果から、模擬法は、限られた時間内で様々なタイプの応答に出合い臨機応変の対応を迫られる機会を計画的に設定できるという点で、技能水準の査定法としてよりも訓練手段として今後さらに開発を進めていく価値があると思われる。実習生の 1 人は、「ロールプレイのときは、回答はまともで採点に困ることはなかった」が、模擬法に対しては「やや意地悪く思えたが、その後で外部の被検者に検査してみると、それが特に極端なものでないことがわかった」とその感想を述べている。

今後の課題として、検査者の対応如何で採点差がもっと明確に表われるような枝分れ応答系列の台本を作成する必要がある、とくに同一回答に対して採点差が生ずる inter-scorer のズレと追及質問の仕方から生ずる採点差を区別できるシステムを工夫すべきであろう。なお、今回はとりあえず実習担当者が模擬被検者を演じたが、この模擬被検者の選び方も一考を要するところである。

〈付記〉この報告は、昭和58年前期に開講された「心理学実習(Ⅰ)」のなかで、担当者である多田治夫・木村敦子両氏と筆者が共同で企画し実行した試みである。記して両氏に謝意を表したい。

## 引 用 文 献

- Plumb, G.B. and Charles, D.C. 1955 Scoring difficulty of Wechsler comprehension response. *Journal of Educational Psychology*, 46, 179-183.
- Schwartz, M.L. 1966 The scoring of WAIS comprehension responses by experienced and inexperienced judges. *Journal of Clinical Psychology*, 22, 425-427.
- 田中富士夫 1977 心理学を専攻する学部学生に対する心理検査実習のあり方——金沢大学における17年間の歩みとラボラトリー・コースの導入——. 金沢大学法文学部論集 哲学篇, 25, 29-54.
- Walker, R. E., Hunt, W. A., and Schwartz, M. L. 1965 The difficulty of WAIS comprehension scoring. *Journal of Clinical Psychology*, 21, 427-429.
- Williamson, J. W., Goldberg, E., and Packard, M. 1973 Use of simulated patients in evaluating patient management skills of telephone counselors—A proposal. In D. Lester and G. W. Brockoff (Eds.), *Crisis intervention and counseling by telephone*. C. C. Thomas. Pp. 310-322.